

# 医科研病院だより



第65号

発行：東京大学医科学研究所附属病院  
令和6年10月15日  
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1  
代表電話03-3443-8111  
ホームページ <http://www.h.ims.u-tokyo.ac.jp/>

【CONTENTS】	病理診断科	1
	すこやかカフェ 検査部	2
	がん看護相談室	3
	なんでもひろば 医科学研究所のマンホール	4

## 東京大学医科学研究所附属病院に受診されます患者さんへ 病理診断科 診療科長 大田 泰徳

はじめまして。私は当院の病理診断科の大田泰徳というものです。病理診断ってなんだろという方が多いと思いますので、簡単な自己紹介と病理学についてのお話をしたいと思います。



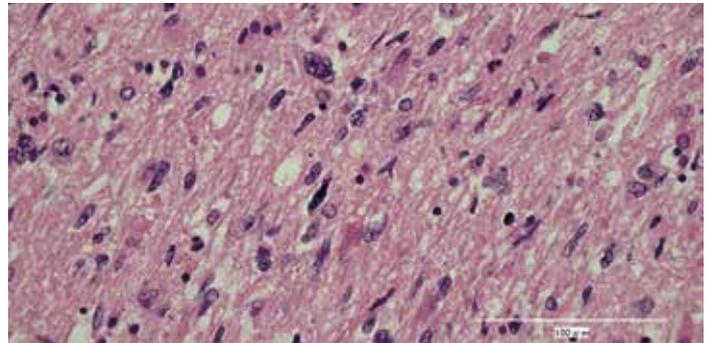
多くの皆様が様々な病気になり、当院を受診されていることと存じます。それでは病気とは一体何でしょうか？

実はこれは非常に難しい問題で、病気というものを一言で簡単に説明することは現代医学でもできないのです。はるか昔より、人類は様々な病気に悩まされてきました。病気とは何なのか、どうすればよくなるのか、あるいは今後どうなっていくのか。人々は悩み、ともすれば人智を超えた存在を仮定したりもしてきました。

やがて中世になり、人々は物事には原因と結果があるのだと考えられるようになりました。そして病気についても、その原因を探ろうとします。そのころ顕微鏡が開発され、細胞を観察することが可能になりました。病気の起源は細胞にあると考えられ、病気になった方の細胞を観察することにより、病気への理解が深まったのです。病気でお亡くなりになった患者さんを解剖して死因を確かめるようになった(病理解剖といいます)のはこの時代からであり、多くの病気の理解が病理解剖により深まりました。

そして20世紀に入り、その知見を活かして、細胞の特徴を捉えることによって病気の診断を行い、治療法を決定していく、外科病理学というものが誕生してきました。この外科病理学というものが病理診断学と名前を変えて、さらに進化し、細胞の形の特徴だけではなく発現たんぱく質や遺伝子など、より細かいレベルでの(ス)

(ス)検討を行って病気の診断が行われるようになってきました。今日の多くの病院において、病理診断医が病理診断を行い、患者さんの病気の決定に重要な役割を果たしています。



ヘマトキシリン・エオシン染色という方法により確認できた脳腫瘍の顕微鏡写真

私は2000年に東京大学を卒業し、一貫してこの病理診断を行ってきました。20年以上にわたる知見をもとに、患者さんの診断のお役に立てるよう、日々研鑽を積み重ねていく所存でございます。医科研病院に受診されます患者さんは通常、担当されているお医者さんと看護師さんと接していらっしゃいますが、その病気の診断に関して、皆様の細胞を通じて病理診断医や臨床検査技師が縁の下の力持ちとしていろいろな役割を果たしています。



# すこやか・カフェ



## 医科学研究所および附属病院と連携する検査部の役割 検査部 臨床検査技師 永井 悦子

検査部は、臨床検査技師という国家資格を持つ技師で構成され、チーム医療の一員として診療をサポートする部署です。検査結果を迅速に医師へ提供し、診断や治療に必要な情報を届けます。新型コロナウイルス感染症の流行時には、PCR検査を担当する医療者としてマスコミに取り上げられたことが記憶に新しいかもしれません。



検体検査室内

検査部の主な業務は、血液検査(肝・腎機能、肝炎抗体検査、感染症、白血病、貧血の精密検査など)、尿や便を用いる検査(尿沈査、寄生虫、細菌培養など)、臓器の機能を調べる検査(心臓や肺の機能検査、超音波(エコー)、病理組織検査、病理解剖)などです。これらは、血液一般検査、生化学免疫検査、微生物検査、遺伝子検査、生理機能検査、病理検査などに大きく分類され、多岐にわたる業務をこなしています。他に遺伝子治療や細胞治療の開発を支援するTR・検証室があり、検査技師はそれぞれの分野で専門的な業務を行っています。

医科研病院は小規模な病院ですが、研究所に附属する唯一の国立大学病院として130年の歴史を持ち、最先端の科学技術や(ス



PCR検査機器



腹部エコー室内

(ス) 革新的な医療の開発を目指しています。

また、地域医療との連携や先進医療の実践にも長年取り組んできました。例えば、いち早く臍帯血移植やHIV感染症の研究と診療に着手し、近年では当院で実施した医師主導治験による世界初の悪性脳腫瘍に対するウイルス療法が保険適用となりました。

検査部ではこのような先進医療への協力だけでなく、一般的な検査業務や治験業務、輸入感染症や新興感染症の検査、海外渡航時の健康診断なども行っています。当院の診療科は多くありませんが、専門性の高い診療を提供しており、医師や研究者と密接に連携できる環境が魅力です。顕微鏡を覗きながらのディスカッションや気軽に相談できる環境は、検査部の大きな強みでもあります。

さらに、先端技術研究への協力を通じて、新たな医療の発展にも貢献しています。また、私たち自身も倫理審査委員会で承認された研究活動に取り組み、新しい検査方法やより正確な検査の実現に向けて日々研究を続けています。

今後も検査部は「縁の下の力持ち」として、信頼性のある検査結果を迅速に提供し、患者さんの診断や治療をサポートしていきます。





医科学研究所 病院A棟8階から

## 「がん看護相談室」について

### 看護部

東京大学医科学研究所附属病院では、がんと診断された患者に対して、専門的な教育を受けた担当看護師が、病気や治療、これからの生活に関する不安や疑問、心配をお聞きし、情報を提供しながら、患者やご家族が考えを整理できるよう支援します。必要に応じて医師や薬剤師、ソーシャルワーカー、管理栄養士など医療チームへの橋渡しを行い、十分な情報を得た上で自己決定・自己選択できるよう支援しています。

\*\*\*

私は、2009年にがん化学療法看護認定看護師を取得しました。がん化学療法看護認定看護師は、がん薬物療法を受ける患者さんやご家族が安全にそして安心して治療を受けられるよう支援する役割があります。

がんと診断された患者さんやご家族は、人生の再構築に迫られ、不確かな中で様々な意思決定をし、また目まぐるしく進歩する薬剤の副作用対策を日常生活に組み込まなければなりません。そのような患者さんやご家族を支援していく相談窓口の一つとして、2015年からがん看護相談を実施しています。がん看護相談では、患者さんやご家族が、安全にそして安心してその人らしく過ごすことができるように、患者さんの意思や考え、価値観を尊重した意思決定支援や、がんに伴う痛みや症状について、また治療による副作用や後遺症、経済的なこと、仕事との両立についての悩みや、医療従事者とのコミュニケーションの回り方など一緒に考え、取り組んでいます。

医師、薬剤師、栄養士、理学療法士など様々な職種と協働し、患者さんやご家族だけで抱え込まず、新たな一歩を踏み出せるような支援を目指しています。

がん化学療法認定看護師 都留 由香里

私は遺伝カウンセリング外来を受診される方、外来および入院中の患者さんとそのご家族の遺伝の相談に対応させていただいております。

遺伝性疾患は様々な専門領域のものがあり、対象の方は生まれる前から亡くなられた後にまで及びます。また、遺伝性疾患は生まれた時すでに発症しており診断されるもの、小児期や成人に発症するもの、遺伝子の変化を持っていても発症する人とならない人がいるもの、治療方法が確立している病気とそうでないものなど様々です。遺伝に関する悩みも、自身が診断され遺伝情報を自身の治療に役立てたい方、お子さんなどへの遺伝を心配される方、ご両親のどちらかや親戚に遺伝性疾患を持った方がいて、自分が病的遺伝子を受け継いでいるかどうかをお知りになりたい方、それらの可能性がある中で結婚や将来子どもを考えるにあたりどうしたらよいか迷われている方など様々です。

私はゲノム診療部とも連携し、悩みの原因や心理面への影響を教えていただき、進歩が著しい遺伝/ゲノムに関する正確な情報提供、心理面のケア、意思決定の支援、倫理面への配慮などその方に合わせた対応をさせていただきよう努めていきたいと考えております。

遺伝看護専門看護師 中澤 光子



(右)がん化学療法認定看護師 都留 由香里 (左)遺伝看護専門看護師 中澤 光子



# なんでも・ひろば



## 医科学研究所のマンホール

### 広報委員会

東京大学医科学研究所附属病院(医科研病院)は130年の歴史を有します。

新1,000円紙幣の肖像画に選ばれた北里柴三郎博士を初代所長として伝染病研究所が設立されたのが明治25(1892)年。その1年2ヶ月後の明治27(1894)年2月に設置された伝染病研究所附属病室が医科研病院の前身です。



伝染病研究所所長 北里博士 1910年9月(明治43年) 撮影

その後、大正5(1916)年4月に東京帝国大学附属伝染病研究所附属病院となり、昭和22年10月 東京大学伝染病研究所附属病院と改称されます。

そして、昭和42(1967)年 6月伝染病研究所から医科学研究所への改組に伴い、医科学研究所附属病院に改められ現在に至ります。

こうした医科研病院の歴史を医科研敷地内の「足元」でご



医科研病院に向って

(ㇿ) 確認いただくことができます。「伝染病研究所」「帝大下水」と記されたマンホールが今も使われています。

ご確認される際には、どうぞ足元と往来にはお気を付けください。



マンホール(伝染病研究所)



マンホール(帝大下水)

### ◆病院からのお知らせ◆

- 臨床検体の取扱いにつきまして  
 当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は  
<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/research/sample-information.html>  
 をご覧ください。

## 東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

### 診療科

内科(総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、消化器)  
 外科(一般、腫瘍、消化器、乳腺)、整形外科(関節)  
 脳腫瘍外科、放射線科、麻酔科、遺伝相談



### 外来診療日

月曜日～金曜日(祝日および年末年始を除く)

### 診療受付時間

8:30～11:30(初診・再診)

12:30～16:00(再診のみ)

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

(確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください)

予約専用電話(予約受付および変更)

診察: 03-5449-5560

検査: 03-5449-5355

受付時間 8:30～17:00(外来診療日のみ)

### アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
- JR 山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門下車」、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分(1メーター)
- JR 品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
- 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車